

# 小名浜港港湾計画改訂

～ 素材型産業、エネルギー産業を支え、  
地域の経済と暮らしを元気にする港湾を目指して ～

## 小名浜港の役割

1. 小名浜港背後圏 臨海部における各種産業活動の基盤
2. 観光などのまちづくりを支える空間
3. 荒天時における避泊など海上交通の要衝

## 改訂のポイント

1. エネルギー貨物やリサイクル貨物の増大への対応
2. コンテナ取扱能力の機能強化
3. 貨物の混在の解消
4. 賑わい空間の拡充
5. 避泊水域の確保



# 1. エネルギー貨物やリサイクル貨物の増大への対応

## 1. 石炭貨物の増加

現在、背後企業や発電所向けに約170万tを取り扱っている（H13実績）

東京電力広野火力発電所の5号機（H16予定）、6号機（H22予定）の運転開始に伴い、年間250万tの石炭を新たに輸入し、発電所へ供給する  
 そのほか、小名浜港に立地する2社が、石炭火力による売電事業に参入。それらにより年間約100万tの石炭貨物が増加する見込み

当面は7号ふ頭（-13m 2バース）、5・6号ふ頭（-14m、-12m 各1バース）で対応。大型船に対応するため、東港地区に-14m岸壁を計画する

## 2. リサイクル貨物の増加

自動車リサイクル、建設リサイクル等、循環型社会の形成に伴うリサイクル貨物増大への対応

現在、小名浜港を利用している完成自動車の物流ルートを活用した自動車貨物の動静脈物流ネットワークの構築を目指す

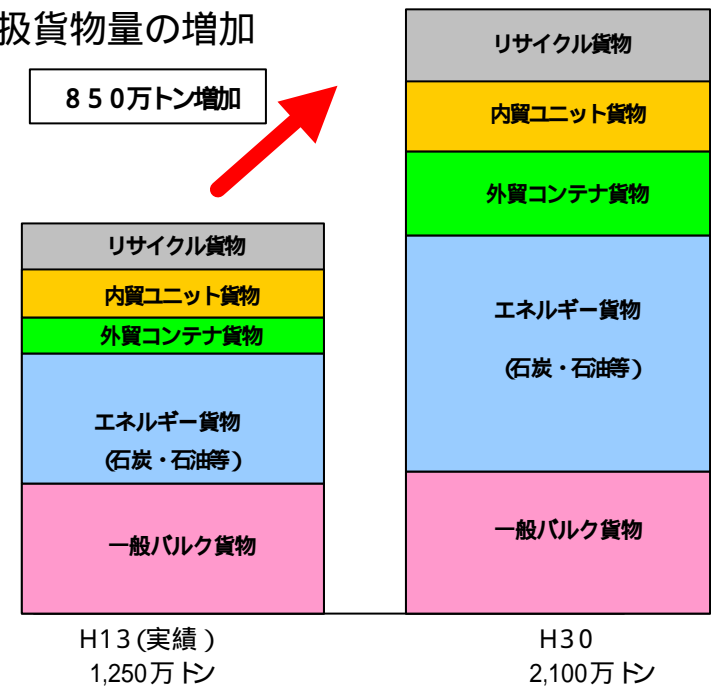
自動車リサイクル法  
 廃車の適正処理を義務化。H16年度末頃から実施予定。

いわきグリーンプロジェクト研究会  
 小名浜港に立地する基礎素材型企業を中心となり、行政、研究機関との連携により、各種リサイクルの事業化を目指す。



## 取扱貨物量の増加

850万トン増加



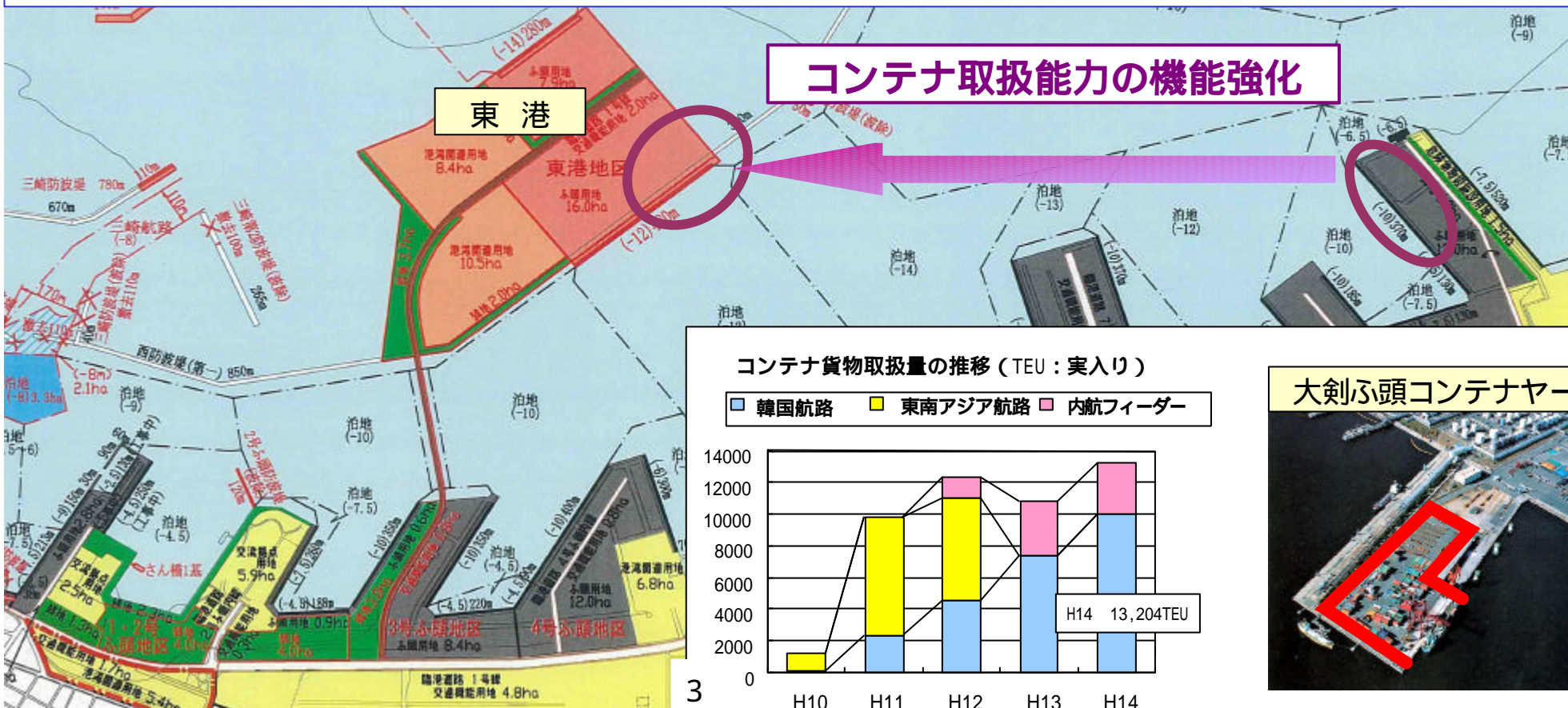
## 2. コンテナ取扱能力の機能強化

### 【現状】

東北地方最大のコンテナ貨物生産消費地は福島県  
 大剣ふ頭の既設バースを改良してH10より外貿コンテナ貨物取扱開始  
 韓国・中国航路、内航フィーダー航路等週6便が寄港  
 手狭なコンテナヤード      コンテナ化の進展

### 【将来】

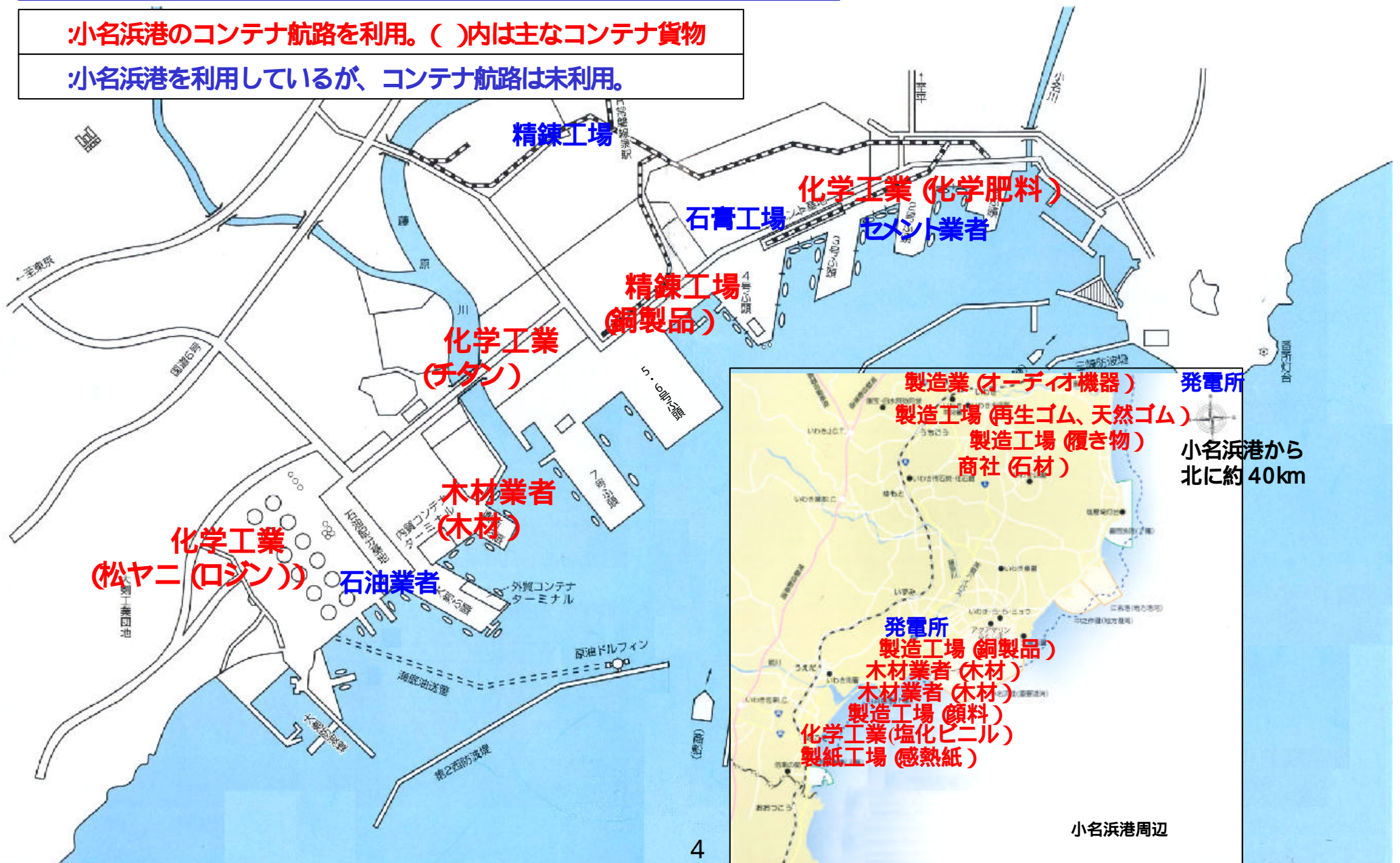
倉庫、薰蒸施設等の整備など、多様なニーズに対するサービス提供  
 大型船への対応と効率的な荷役を実現するため、東港地区へ展開



# 小名浜港コンテナ航路を利用する主要企業

小名浜港のコンテナ航路を利用。( )内は主なコンテナ貨物

小名浜港を利用しているが、コンテナ航路は未利用。



### 3 . 貨物の混在の解消

#### 東港を軸とした貨物の再配置

H16~

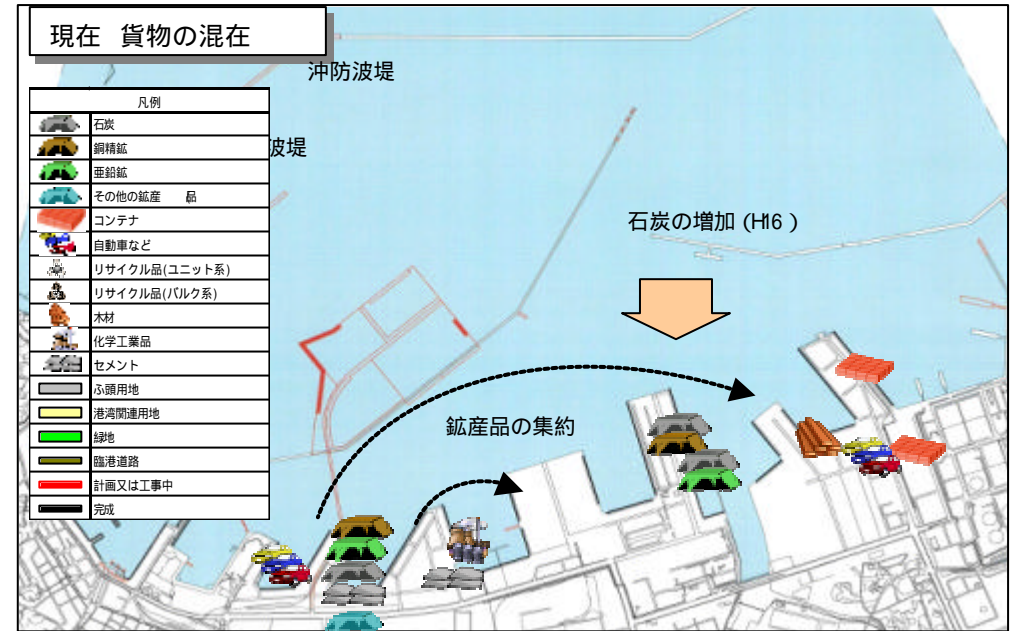
船舶の大型化に対応し、5・6号、7号ふ頭大水深バースに鉱産品を集約する。東港供用開始に向けて貨物シフトを行っていく。

H22~

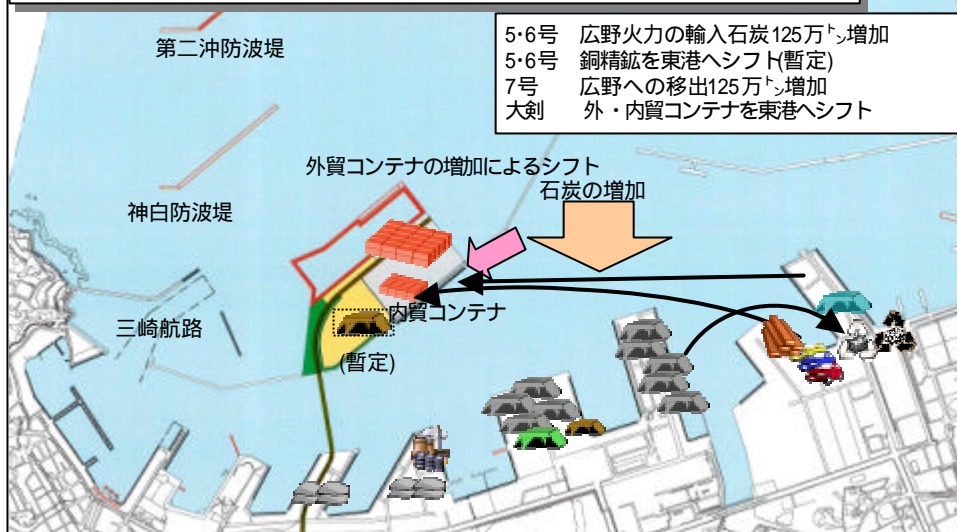
東港-12m岸壁2バースの供用を開始し、外内貿コンテナを集約して増加が見込まれるコンテナ貨物への対応を図る。既存ふ頭の再配置を推進する。

H30

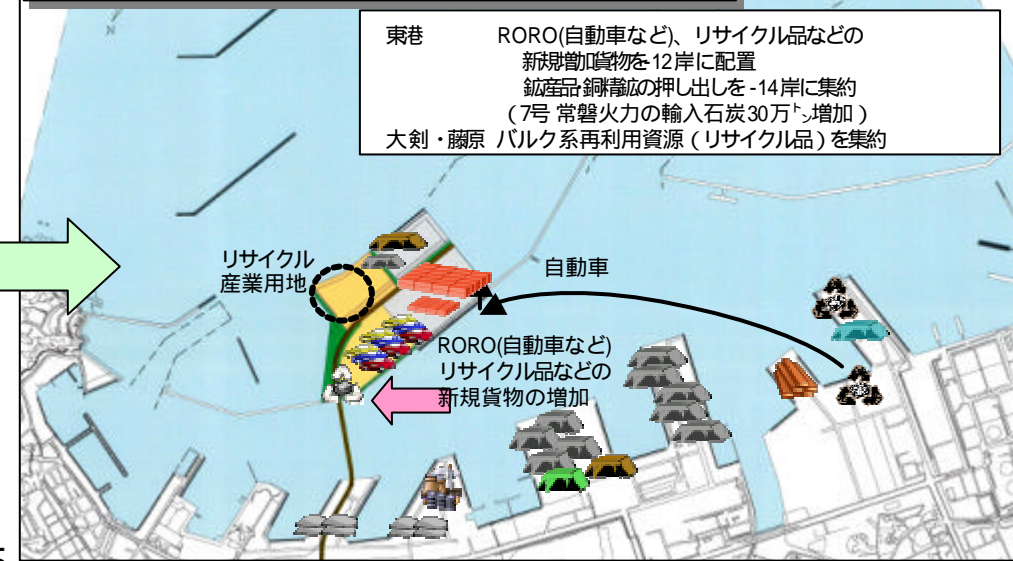
東港の完成により、ROROや内外貿コンテナ対応の多目的バース、鉱産品対応の大水深バースを中心にふ頭利用の効率化、利便性の向上を図る。リサイクル貨物への対応。



#### H22年 エネルギー貨物の再増加による鉱産品の押し出しと外貿コンテナの増加によるシフト



#### H30年 ROROおよび新規貨物による鉱産品の押し出し



## 4.賑わい空間の拡充

### 【現状】

1・2号ふ頭地区は集客施設や緑地の整備により、来訪者が年間250万人を超える賑わい空間を形成している

海辺の賑わい空間と市街地は、倉庫や臨海鉄道などにより分断されている

### 【将来】

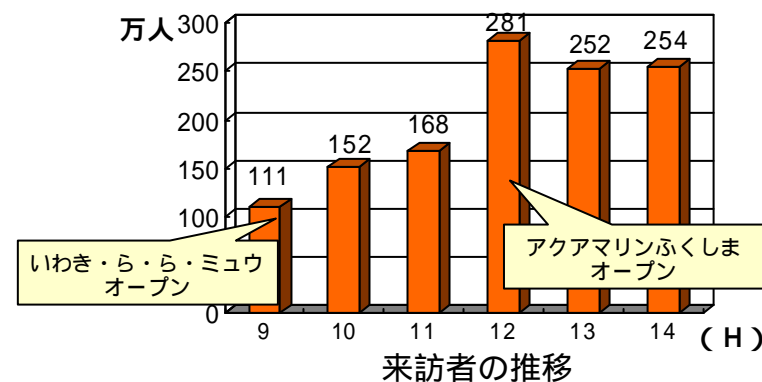
NPOとの連携によるまちづくりプランの計画への反映

海辺交流空間の賑わいを市街地へ誘導し、港と一体となったまちづくり

現在の賑わい空間を1・2号ふ頭から3号ふ頭にかけて拡張し、連続的な賑わい空間を確保する



1・2号ふ頭賑わい空間



## 5 . 避泊水域の確保

小名浜港は、現在、東北・北海道と東京湾以西を結ぶ内航航路の荒天時における避泊地として、多くの船舶に利用されている。今後、海上交通ネットワークの安全性向上のため、更なる避泊水域を確保

